熊本大学留学生合唱団

《送别》についての思い出

熊本大学大学院博士前期課程1年　朱美意

《送别》を初めて聞いたのは小学校の授業の時です。林海音の小説『城南旧事（北京の思い出）』の最終章「爸爸的花児落了（父さんの花が散った）」が小学校の教科書に収められ、その中で主人公が小学校の卒業式で《送别》を歌っているので、国語の先生はこの歌を授業で流しました。小学生だった私には、別れの感情はよくわからなかったのですが、この歌からほんのり悲しみを感じました。私の小学校の卒業式では《送别》ではなく、その時流行っている曲を歌いましたが、《送别》の悲しい感情は忘れられません。

同大学院研究生　章天然

小学生の時に音楽の授業で笛を習いました。ある日、先生が私たちに《送别》という曲を教えてくれました。初めてその旋律に触れた瞬間、心に深い感動が湧き起りました。当時の私はまだ幼く、別れのような深い情感を理解することはできなかったかもしれません。しかしこの曲は、新たな感情を教えてくれました。先生が演奏する度に、その美しい旋律に心を奪われました。時が経つにつれて、その曲のエッセンスを理解し、別れの背景に宿る深い愛情を理解するようになりました。《送别》は私にとって特別な存在であり、その美しさと深さは今も心に残っています。

同博士前期課程2年　陳碧盈

《送别》は卒業の時期によく歌われます。歌詞の中にある「芳草」は日本語では春の季語ですが、自分のイメージでは夏です。中国では卒業式が夏の6月となることが多く、卒業式や卒業記念パーティでは《送别》という歌をよく歌います。小学校の卒業式では同級生と《送别》を歌ったが、別れは悲しいものとは思いませんでした。しかし、卒業してから、同級生と再会したことはありません。今は、やんちゃな同級生たちを時折思い出します。

同大学院　特別研究生　彭希照

犬童球渓作の《旅愁》と李叔同の《送别》は同じメロディです。この曲を聴くと、小学校時代のことが思い出されます。校舎の裏にある音楽教室から《送别》のメロディが運動場まで聞こえて、放課後の夕陽を歌っているような気がしました。あの時、まだ歌詞を理解できなかったけれど、人をしんみりとさせる寂しさだけが今になっても鮮明で、この曲を聴くたびに蘇ってきます。《送别》で送られ、留学で日本に来た今は、《旅愁》を聴いて郷愁に浸ります。寂しさを伝えるこの曲は、留学生の私たちにとって特別で、縁のある歌だと思います。

同前期課程1年　李逸昇

2010年、小学6年生の頃、DVDで台湾出身の声優による中国語吹き替え版の大山版ドラえもんを見ました。第733話「能力カセット」では、のび太がドラえもんの道具の力を借りて李叔同の《送别》を歌っていました。歌詞がよかったのでこの歌をずっと覚えていますが、犬童球渓の《旅愁》のカバーだったことをつい最近知って驚きました。YouTubeで調べたら、キッサコの薬師寺寛邦さんも、中国語と日本語の2か国語でこの歌を歌っています。言語が違うけれども、メロディから同じ寂しさが感じられ、音楽は国境を超えた言語だと実感しました。